

県立青少年教育施設の再編構想の概要

令和2年5月 教育庁教育振興部生涯学習課

公の施設の見直し方針（H28.7 行革推進本部）

児童生徒数の減少、利用状況、施設の老朽化の状況等を踏まえ、**県立5施設体制を見直す**こととし、現指定管理期間中に各施設の取扱い方針を決定する。
※現指定管理期間：平成28年度～令和2年度

青少年教育施設の課題

- 青少年教育施設の利用者の減少
 (H14が青少年教育施設の利用者最多
 H14：58055人/施設 → H29：55415人/施設)
- 閑散期利用極小（11月～3月）
- 施設の老朽化（昭和47～平成9年設置）
- 指定管理料の負担増
 (年少人口の減少に伴い、収益に対する経費の支出の過多)

社会的要因

- 少子化による年少人口の減少
 (2015年→2045年では26%減)
- インターネットやSNSの普及によるライフスタイルの変化
 (集団・個人による体験活動の減少)

特色ある施設の創設

5施設から4施設への再構築

青少年教育の充実

県内市町村青少年教育施設とのネットワーク化

自然と触れ合える『魅力ある体験の場』の提供が必要

地域の活性化

持続可能な地域づくり
県立青少年教育施設の充実

～自然と親しむ施設の充実～

- ① 自然豊かな環境を生かした青少年教育に資する施設
- ② 現代的な課題に対応できる施設
- ③ 多様な利用者及び利用形態にも対応できる施設
- ④ 家庭教育の支援にも繋がる施設

自然体験の機会の充実により豊かな心と体を育む
インターネットの進展等、社会の多様化に伴う「自然と人」「人と人」との関わりの希薄化に対応するため、**自然と触れ合う体験活動を通じ**、豊かな心と体を育む

機能の充実（4施設へ集約）

- 千葉県を代表する魅力的な自然を生かした施設を再構築
- より充実した青少年教育を提供する施設へ
- 施設の特色に合致した親しみやすい施設名称の検討

◎県内市町村青少年教育施設とのネットワーク化による機能充実

○ボランティアの登録制度導入

- ・県内4施設の共通したボランティア育成計画により千葉県全体のボランティア活動の活発化に繋がる

○合同情報提供制度

- ・各施設で体験できるアクティビティ集を作成することにより、県民にわかりやすい情報が可能となる
- ・県内市町村青少年教育施設（宿泊あり●）の内容も記載し、それぞれの施設の持つ特徴を生かし、県民の豊かな自然体験活動の場を提供し、千葉県全体で活性化を図る
- ・宿泊定員を超えた場合、他の県内市町村青少年教育施設への案内なども積極的に行い、利用者の体験活動の推進を図る

◎限られた財源の有効活用

○指定管理者の競争効果

- ・財源を効果的に活用し、民間業者の指定管理制度への関心を高める

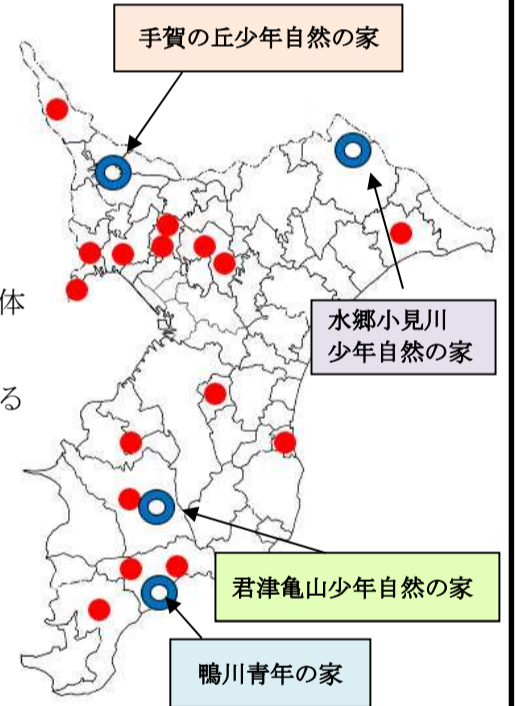
○施設の利用者へのサービス充実

- ・施設整備、より工夫した主催事業等の提供が期待できる

◎閑散期対策

- ・閑散期（11月～3月）対策として民間事業者等の柔軟な発想・手法の活用や、従来の枠にとらわれないサービスの提供を検討し、稼働率・収益の向上を目指す

県の4施設を機能の中核とし、県内市町村青少年教育施設とネットワーク化を図り、有機的な連携を互いに補完し機能の充実を推進する。



※●県内市町村青少年教育施設（宿泊あり）

千葉県を代表する魅力的な自然（森・海・川・沼）を生かした施設を再構築

これら4つの自然を施設の周辺にもつ既存の4つの施設を選択し、自然環境を活用した自然体験活動を目的とした施設として新たに設置

森

海

川

沼

君津亀山少年自然の家（君津市）
定員300人
特徴：房総丘陵のほぼ中央に位置し、施設内に雑木林を持つなど、雄大な自然を活用した自然体験活動の充実
※月出野外活動施設の廃止



鴨川青年の家（鴨川市）
定員360人
特徴：カッター、シーカヤック研修を中心とした海洋プログラムの充実



水郷小見川少年自然の家（香取市）
定員220人
特徴：水郷地域におけるリバーカヤック体験や施設内における初心者向けカヌー体験



手賀の丘少年自然の家（柏市）
定員300人
特徴：手賀沼、手賀の丘公園を活用した自然体験活動プログラムの充実



東金青年の家は廃止。ただし、4つの施設のプログラム開発やネットワーク強化、利用者への周知期間を確保するため、次期指定管理期間（5年）は運営を継続する。

更なる充実に向けて今後も検討を継続